

平成 30 年度 専門領域推進部 ウィメンズヘルス領域 第 1 回 勉強会 活動報告

日 時：平成 30 年 4 月 18 日（水）18：30～19：30

会 場：山形済生病院 会議室

参加者：押切、庄司、本間（山形済生病院）、石川先生（山大付属病院）

担 当：坂本優捺（山形済生病院）

テーマ：立川相互病院の見学報告会

【内容】

立川相互病院での産婦人科で介入している PT の現状について見学してきた内容の伝達を行った。

産婦人科領域の理学療法士に対するエビデンスはまだまだ少なく、海外の論文を見ても、日本産婦人科学会のガイドラインにも明確なリスク管理や介入方法が記載されているわけではない。整形や脳血管疾患でのリハビリの知名度はかなり上がってきているように感じるが、産婦人科領域でのリハビリと聞くと患者さん側はイメージできないことも多い。実際介入するにはこれから PT が行うことについての説明を十分に行い、患者さんに必要性を理解していただくことも大切であり、ましてやこれから出産を控え入院を余儀なくされている妊婦さんのメンタルケアに十分配慮しながら行う事も重視しなくてはならない。

立川相互病院ではしっかりと説明を行った上で、必要性をご理解いただき、同意の得られた上で、介入。リスク管理は特に問診をしっかりと行う事と、常にお腹の張り状況を問診・視診・触診で確認しながら実施するということであった。医師や助産師さんなど他職種との除法交換も密に行い、細かな状態の変化に気を配ることも需要であると理解できた。本当であれば介入前後で NST 等を測定してもらい、数値的にもお腹の張りが悪化していないか確認することができればベストであるが、助産師さんの業務量等の兼ね合いもありまだそこまでの体制は整っていないとのことだった。

【所感】

実際に介入している現場の状況がわかることは大変有意義であった。当院でも産婦人科での介入がはじまり、今後県内の病院でも介入数が増えてくることも予想されるため、もっと情報共有できる場を作っていかなければならないと再確認した。

文責：庄司